

## 声をカタチに

白旗団地と南町三丁目(マルエツ近く)  
をつなぐ階段に手すりを設置



蘇我1~2丁目・東武ストアから若草・  
南税務署間の歩車道整備が完了



# さかい通信 2022 秋号



## デジタル化の推進 誰もが恩恵を受けられる環境づくりを

去る9月8日から10月6日まで、令和4年第三定例会が開催されました。9月30日には一般質問に登壇し、市政各般にわたる質問を行いました。(詳細は中面参照。)なかでも「デジタル化の推進について」に関する質問では、新たな取り組みも示されましたのでご紹介致します。



一般質問を終えた議場にて

### ●オンライン相談の拡充

2年前の議会質問で取り上げて以来、昨年7月から家庭ゴミの問い合わせにAIチャットボットが導入されたほか、行政手続件数の約8割に相当する手続がオンラインで利用可能となりました。

また、相談事業では、ふるさとハローワークや発達障害者支援センターの相談業務、妊婦や乳幼児の健康・育児相談でオンライン対応を開始。本年7月からは、区役所に来られた外国人と国際交流協会をオンラインで生活相談ができる仕組みが導入されました。今後は、各職員のパソコンでもオンライン対応を可能とする環境整備を進めるとのことです。

3密を避けながら顔が見える形で情報提供や意見交換ができることや、相談場所への移動が必要ないことなど、大きなメリットがあります。対象事業の更なる拡大に向けて取り組んでまいります。

### ●Wi-Fi環境の整備拡充

5年前、公共施設等の無料Wi-Fi「千葉シティWi-Fi」の導入を議会で提案。3年前より公民館、コミュニティセンター、図書館等に整備されております。(右がロゴです。)

今回の質問では、街なかへのWi-Fi環境の整備促進と合わせ、(学校でのタブレット活用が行われていることから)子どもルーム及び一時保護所、(オンライン面会を可能とする)市立病院へのWi-Fi環境の整備を求めました。

当局からは「街なかへの整備は、より利便性の高いサービスを検討する」「子どもルームは検討していく」「一時保護所は更なる環境整備が必要」「市立病院はニーズや療養環境を踏まえながら検討していく」との答弁がありました。災害時にも有効であり、一層の環境充実へ取り組んでまいります。



### ●「スマホ講座」は11月から2月に実施

一昨年9月の議会では、全ての人が最低限必要な技術を使えるように保障する「デジタル・ミニマム」の理念が重要として、高齢者や障害者に対する支援の充実を訴えました。

その後、昨年9月からは、本市でも公民館などでスマートフォン講座を開催。本年は、11月から2月にかけて昨年を上回る70回程度の規模で実施されます。



## 原油価格・物価高対策の補正予算が成立!

国の経済対策の決定に伴う事業経費のほか、千葉市独自の原油価格・物価高騰への対応として補正予算が生まれ、成立致しました。

### 【市民の皆様向け】

#### ●価格高騰緊急支援給付金

低所得世帯(住民税非課税世帯等)に5万円/世帯を支給。約12万世帯が対象で11月より順次支給。

#### ●子育て世帯臨時給付金

中学生までの児童を養育する世帯に1万円/世帯を支給。約7.7万世帯が対象で12月より順次支給。

### 【事業者の皆様向け】

#### ●高齢者施設、民間保育施設等支援

物価高騰の影響を受ける施設等の負担を軽減するため、光熱水費等の負担増に対する支援金を支給。

#### ●商店街街路灯・防犯街灯補助

商業団体・町内自治会等に対し、4月以降の電気料金上昇分×補助率を補助。

#### ●中小企業者緊急特別支援金(下表参照)

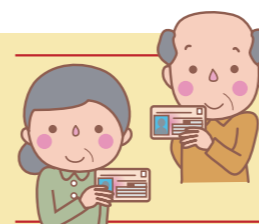
対象期間	【現行】			【追加】
	令和4年4月~8月(5か月)			令和4年9月~11月(3か月)
コスト増加額	10万円以上 20万円未満	20万円以上 30万円未満	30万円以上	20万円以上
支給金額	5万円	10万円	15万円	一律10万円以上
BCP策定加算	10万円			
申請期間	令和4年8月25日~12月15日			令和4年12月~令和5年12月1月
事業費	670百万円	支援金 事務委託等	600百万円 70百万円	410百万円 支援金 事務委託等
				390百万円 20百万円



市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員 **酒井 伸二** | 〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14  
Tel.090-2910-3925

ホームページは「酒井伸二」で検索ください! <http://www.facebook.com/sakai.cc> e-mail:sakai\_chiba@outlook.jp



※マイナンバーカードの取得及びマイナポイントの申請について、各区役所には写真撮影も含め、いずれの手続きもサポートする窓口が設置されております。詳細は、中央区・市民総合窓口課まで!

中央区・市民総合窓口課 043-221-2109

## 令和4年 第3回定例会における一般質問より

去る9月30日、本会議にて一般質問に登壇しました。

■以下のサイトにて、録画放映がご覧になれます。ぜひご覧下さい！

[www.chiba-city.stream.jfit.co.jp](http://www.chiba-city.stream.jfit.co.jp)

議員名「酒井伸二」で  
検索ください！

酒井伸二

検索



## ◆ 脳脊髄液減少症について

脳脊髄液減少症は、交通事故・スポーツ外傷等、身体への強い衝撃により、脳脊髄液が漏れ、もしくは減少し、頭痛・めまい・吐き気・倦怠感等の様々な症状が発症する病気です。その症状は外見からはわかりにくいので、医療現場や交通事故時の保険関係者から理解が得られず、患者及びその家族は医療難民となり、肉体的・精神的な苦痛を味わってきた歴史があります。同疾病は2000年に「ある脳神経外科医」により提唱され、2007年には国が研究を開始。2016年には、患者及び家族の念願でもあった、中心的な治療法であるブラッドパッチの診療報酬点数が保険適用となりました。今般、脳脊髄液減少症と向き合う市民、ご家族の方から直接お話を伺う機会があり、取り上げました。

質問では（医師の確保の為、診療報酬点数を上げるよう国に求めていくことその他）起立性調節障害やうつなど、類似症例の患者をサポートする機関に、より積極的な情報提供を行うことや、昨年設立された「日本脳脊髄液漏出症学会」の存在を医療関係者に周知するなどを求めました。

当局からは、「各区健康課や心の健康センター、各学校へ本疾患の特性を周知するほか、日本脳脊髄液漏出症学会について広く周知に努めていく。」との答弁がありました。今後とも継続的に取り組んでまいります。

## ◆ 防災施策の充実について

### ● 防犯カメラの設置拡充

8年前に議会質問で取り上げて以降、昨年度末段階で自治会向けには49団体144台の設置、主要駅には6駅60台の設置がなされました。毎年度20件程度の県警からの（録画画像に対する）照会があるなど、一定の効果あったと考えられます。

今後の駅周辺への更なる設置については、犯罪発生状況を基に検討がなされていきますが、設置未決定の駅における犯罪発生件数の多い駅は、（昨年のデータで）京成幕張駅、JRの鎌取駅、検見川浜駅、浜野駅、土気駅となっております。犯罪発生抑止の視点から、引き続き取り組みの強化を求めてまいります。

### ● 分かりやすい地域防犯情報の発信

地域の学校から寄せられる不審者情報だけでも、ここ数年、年間200件以上の情報が寄せられています。つまり登校日ベースで見れば、必ず毎日1件は市内のどこかで子どもたちが不審者に遭遇していることとなります。そうした課題認識から、2014年以降質問で取り上げてきました。

今回は、日ごろ防犯パトロールにご協力頂いている地域の関係者からの声をもとに、市から発信される情報の精度向上を求め、「今後はより分かりやすい形での情報提供を検討する」との答弁を得ました。

そこで5年前にも引用した、東京都が開発する「防犯ボランティア応援サイト」を改めて紹介し、今後の情報発信の参考とするよう提案致しました。（同サイトでは、オープンデータの提供とともに、子供たちへの不審な声かけ事案、交通事故発生状況、町丁別の犯罪情報、特殊詐欺の被害状況等もマップベースで閲覧できます。）

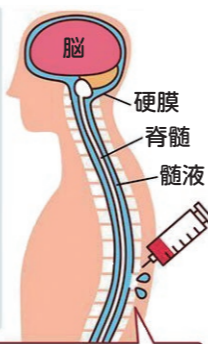
その他、学校防犯システム「ツイタもん」の全校への整備を加速するよう求めました。

### 脳脊髄液減少症とブラッドパッチ

脳脊髄液減少症とは…  
衝撃で硬膜に穴が開き  
髄液が漏れ出る。



脳の位置が下がり、脳と頭蓋骨をつなぐ血管や神経が引っ張られる。  
▶頭痛・めまい・吐き気などを引き起こす。



ブラッドパッチ…  
損傷した硬膜の外側に自分の血液を注入し、かさぶたのようにふたをし、漏れを防ぐ。

## ◆ 緊急通報システムについて

65歳以上の単身高齢者を対象とした無料の見守りシステムで、ガードマンを呼べる緊急ボタン、看護師に相談ができる相談ボタンを基本に、トイレのドアに付けるセンサー、及び火災警報器からなるサービス。

今から12年前、議会で当時の事業の見直しを提案し、8年前より現在のシステムが運用開始となりました。

利用者世帯は、前システムから約3倍増の4,400世帯。昨年度の通報件数230件のうち130件を、安否センサーでも30件を救急搬送につなげるなど、効果を発揮しております。

また、24時間対応の相談機能は健康、医療、介護、心の問題等のご相談に看護師等の専門職が対応するもので、利用者の安心につながっております。

今後益々利用者の増が見込まれること、コミュニケーションロボットなど新たなサービスの台頭もあることから、持続可能かつ、より柔軟で充実したサービスを継続的に検討するよう求めました。



## ◆ 学校施設について

蘇我中学校に通う生徒及びご父兄より「部活で利用する武道場が狭い」と幾度となく伺って参りました。柔道、剣道、併せて例年4~50名の部員数で、半分ずつ分け合い、活動しているとのこと。（写真）

質問では、同校の武道場が市内で最も古く、近隣校と比較し生徒数・部員数は倍以上にも関わらず、武道場の広さは4~6分の1程度と判明。「武道場の増改築予定はない」とのことでしたが、こうした現状を認識した上で、今後の学校施設の見直しを検討するよう求めました。

その他、小中学校の校庭改良についても状況を伺ったところ、今年度は大蔵寺小学校他2校で実施設計を行っているとのこと。



## ◆ 人と動物の共生する社会づくりについて

地域猫の推進、多頭飼育問題への対応、狂犬病予防集合注射の見直し等の他、啓発・教育が最も重要と考え、（8月に視察した）宇陀アニマルパーク・奈良県動物愛護センターの取り組みを紹介し、取り組みの強化を求めました。

同センターでは10年前より、本物の動物を使わず手作りの張り子で教える「いのちの教育プログラム」を推進。動物との関わりを入口に、あらゆるいのちに共感し、いのちを大切にする心を育む教育で、RSPCA=イギリス王立動物虐待防止協会の教育プログラムに習い、動物に負担をかけることなく、また、子どもたちに「動物は我慢させてもいい対象」といった誤った情報発信にならないよう工夫されております。

担当者は「社会に動物福祉を拡げることで、誰もが動物に対する正しい行動ができるようになる。それはきっと人にもやさしい社会につながる。」と。また、同施設では「(収容動物の)適正管理は全ての啓発事業の基礎としてもう一段上の管理を目指している」「大人がどんな姿勢を示していくのか、それがいのちの教育につながる」と、動物のQOLにこだわり運営しておりました。

スタッフに3名の教員を配置し、今年度は県内約4割の小中学校で実施される予定。これからの千葉市の新たなセンターを思考するにあたり、参考にすべき取り組みと言えます。

この他、近年多くの自治体で「災害時の対応」「猫の適正飼養」「多頭飼育の届け出」等の条例整備が進んでおります。動物に関する価値観が多様な現代にあって、本市としても動物愛護に関する条例の見直しに着手すべきと訴え、「条例改正について検討する」との答弁がありました。しっかりとフォローしてまいります。

この他「パラスポーツの振興」「公民館」について質問を行いました。  
詳細は、録画放映・議事録等をご覧下さい。

